

企業の不正対策の制度設計と 不正対応活動のポイント

—不正の原因分析を踏まえたハード面（制度）と
ソフト面（活動）からの対策の見直し—

- ◆日時◆ 東京開催 2016年3月14日（月）13:30～17:30
大阪開催 2016年3月29日（火）13:30～17:30
- ◆会場◆ 東京：麹町 企業研究会『セミナールーム』
大阪：新大阪『大阪コロナホテル』※新大阪から徒歩2分
- ◆講師◆ 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人

【講師 ご略歴】

大手監査法人における約20年の会計監査への従事と10数年にわたる内部監査、内部統制、不正調査、リスク管理等のアドバイザリー業務の経験を経て、2012年、新日本有限責任監査法人シニア・パートナーを退任。

現在、ABボロボのコーポレートオーディット日本担当ダイレクターおよびUDトラックス株式会社監査役として監査実務に従事。一方で内部監査関連の執筆、講演活動にも従事。

最近の著書『内部監査の課題解決法20』税務経理協会、論文『海外監査の検討課題～成熟度レベルに応じた問題認識と対応』一般社団法人日本内部監査協会「月刊監査研究」2013年11月号、『リスクマネジメントに対する内部監査の対応～最適化シナリオに向けて』同2012年3月号掲載。公認会計士、公認内部監査人、米国公認会計士（現在 inactive）。

各種団体等でのセミナー実績多数、長い実務経験をベースに事例を中心とした実践的で懇切丁寧な語り口で好評。

【開催に当たり — 藤井講師からのメッセージ】

最近、頻繁に報道される大企業の不適切会計問題や偽装事件は、これまでの企業の不正リスク対応に警鐘を鳴らす事件として、企業の不正対策見直しのきっかけとすべきでしょう。内部統制ができていないはずの大企業でなぜ企業不正が起きるのか。その問題に正面から取り組む本セミナーでは、原因となる要因を内部統制やリスクマネジメントの面から解き明かし、必要な不正リスク対応策を検討するための実務上の知見やノウハウを提供いたします。

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

| | | | |
|-----|---------|----|---------|
| 正会員 | 31,320円 | 一般 | 34,560円 |
|-----|---------|----|---------|

[本体価格 29,000円 本体価格 32,000円]

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認ください。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者をご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先

(社) 企業研究会 経営管理研究グループ

担当) 居代 E-mail: ishиро@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516 / FAX 03-5215-0951 ~ 2

※東京・大阪 □欄のいずれかにチェックをお願いします。

| | | |
|--|------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 東京[3/14] 151906-0202 | 企業の不正対策の制度設計と 不正対応活動のポイント | |
| <input type="checkbox"/> 大阪[3/29] 151904-0202 | // | |
| 会社名 | | |
| 住所 | 〒 | |
| TEL | FAX | |
| 部課 役職 | フリガナ お名前 | |
| e-mail | | |

13:30 1. 企業不正のパターン — 日本企業に見られる特徴

不正が起こる領域やそのパターンによって対応方法も異なります。そこで昨今の偽装事件に見られるコンプライアンス型不正や粉飾決算の原因といわれる企業風土型不正などを中心にその不正パターンの特徴、原因及び対応ポイントを解説します。

2. 不正リスクとガバナンス / 内部統制とのインターフェイス

大企業には必ず内部統制があります。そこで起こる不正への対応とは、不正と内部統制の接点（インターフェイス）に注意してマクロ（全社レベル）とミクロ（業務レベル）の双方からその発生メカニズムを解明し、適切な対応を講ずることです。

- 15:00
休憩
15:10
- (1) マクロ・レベル：企業不正の根本原因とみられる企業風土とガバナンスの問題をリスクマネジメントや内部統制の理論さらに日本のパワーハラスメントや英国の Blame culture (非難文化)などを参考にさまざまな角度から検討します。
 - (2) ミクロ・レベル：現場で遭遇する不正と内部統制のインターフェイス（出会い）のパターンを解説します。
 - (3) 法制度上の問題：不正問題の背景にある制度上の問題についても触れておきます。
 - ①日本のコーポレート・ガバナンスの法律議論には上がらない日本企業のガバナンスの問題
 - ②不正対策ではなかったのか — 内部統制報告制度（J-SOX）の脆弱性

3. これからの企業不正対策のグランド・デザイン

16:30
休憩
16:40

平時から有事まで、企業不正対策を実効させるハード面（制度）とこれに魂を吹き込むソフト面（活動）の在り方を不正対策の3つの方向（予防・発見/摘発・抑制）や企業の全社的取組の原則（不正対策のバイブル）を視野に入れて解説します。また不正対策の担い手（不正検査士、公認会計士、公認内部監査人）のそれぞれの活動分野と強み・弱みも検討します。

4. 不正対応活動の実務上のポイント

不正対策に実効性を与える3つの活動（内部監査、不正調査、不正リスク評価）の進め方と留意点を事例も含めて解説します。

- (1) 不正対応内部監査と不正調査の違いと進め方—不正監査と不正調査とは似て非なるもの
- (2) 専門家がこぞって推奨する不正リスクの定期的評価—何をどこまでやればよいか
- (3) 一般の不正調査とはここが違う不正発生後の内部統制レビューおよび通報対応のポイント

17:30 **《質疑応答》** 個別のご質問・ご相談にも対応いたします。

★弊会ホームページからも申込み可能です。「トップ」→ 「セミナー・会員研究会」→「03. 監査」